

O1-028

眼鏡をかけさせてもらえない子どもたち (消極的ネグレクト)

鈴木 武敏

医療法人如水会 鈴木眼科吉小路

【目的】

歯科領域では虫歯の治療放置のなかに家計の問題による消極的ネグレクトが含まれており、医療費の扶助などの対応がなされている。しかし、眼科領域で眼鏡装用における消極的ネグレクトがあることは意外と話題になっていない。そこで、小学生を対象に、視力不良であるにもかかわらず、眼鏡を装用させてもらえない子どものなかで、消極的ネグレクトに含まれる割合を調査した。

【方法】

奥州市教育委員会にお願いし、市内全小学校で視力C以下でありながら眼鏡を装用していない子どもたちの家庭にアンケート用紙を配布し、その理由を記入してもらった。

【結果】

回収した557名のうち、かけさせたくないが154名、かけた方が良いと思うが、かけさせられないが109名であった。そのうち眼科医からの不適切な指導および保護者の誤った知識によると思われる不装用が472件（複数回答可）であり、両者を合わせたものを「眼科領域における消極的ネグレクト」と考えると予想以上に多かった。

【結論】

眼鏡不装用の子どもたちの中で、消極的ネグレクトと考えられる例が、予想以上に多いことが明らかとなった。視機能の発達、学習の機会均等を考えると、家計的な問題の場合は、義務教育期間を含めた子どもたちへの眼鏡現物の公的扶助を、誤解をなくすためには、眼科医による指導内容の統一、保護者を対象にした眼鏡の重要性に関する医療啓発が必要である。